

トルコの金融市場動向 Weekly Report

【2017年10月28日～2017年11月3日までの推移】

【1】先週の回顧

先週のトルコ・リラ相場は1週間を通して見ると対米ドル、対円で下落しました。またトルコの2年国債金利は上昇しました。

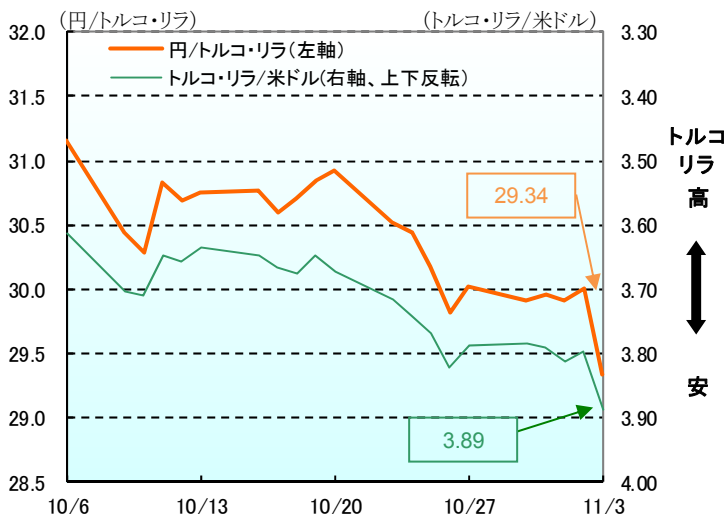
10月分の消費者物価指数は前年同月比で+11.9%と市場予想を上回る加速となりました。食料品やエネルギーに加えて、衣料品や家具調度品といった品目の値上がり率がインフレ加速の要因となりました。また、四半期インフレ報告では全体的にインフレ見通しが引き上げられました。トルコ金融市場では、インフレへの懸念が高まったことを背景にトルコ国債金利は大幅な上昇となりました。トルコ・リラについては、インフレ懸念やイランのマナー・ロンダリング事件にエルドアン大統領も関与した疑いがあるとのニュースなどを受けて、対円、対米ドルで下落となりました。

【2】今週の見通し

今週は、特段重要な経済指標の発表は予定されていませんが、ユルドゥルム首相の訪米が予定されています。トランプ米大統領はアジア歴訪中のため、ペンス米副大統領との会談が予定されています。足元で高まっているトルコと米国の関係悪化懸念は、今回の訪米では完全に払拭できないと思われませんが、ビザ発給問題などにおいて両国が関係改善に向けた努力をしている様子が見られれば、両国の関係悪化懸念に緩和が見られると考えます。

またイランのマナー・ロンダリング事件にエルドアン大統領が実際に関与したかについては不明ですが、マナー・ロンダリング事件に関与した疑いでFBI(米国連邦捜査局)に拘束されているレザ・ザラブ氏の裁判が11月下旬にも開始されます。同氏がエルドアン大統領の関与を示唆したこともあり、こちらの動向にも注意が必要と考えます。

【トルコ・リラ 為替推移】 (2017年10月6日～2017年11月3日)



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

【トルコ 金利推移】

(2017年10月6日～2017年11月3日)



(出所:ブルームバーグより大和投資信託作成)

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>